

イベントづくりを通して、墨田を元気にし、会社の価値を高めたい



弊社が手掛けたパンフレットの一部。
「すみだバルウォーク」は運営事務局も担当。苦労が多かった分、特に印象に残っている仕事です

株式会社東京アート印刷所
太田 茉莉瑛さん(28歳)
東京都出身。高校卒業後、株式会社東京アート印刷所にデザイナーとして入社。2年間のアルバイト期間を経て、社員に。現在は「地域わくわくデザイン部」のディレクター兼営業として、地域活性化のためのイベントを数多く手掛ける。

太田さんの とある1日のスケジュール

7	7:10 起床
8:45	出社 メールのチェックなど
9:00	始業・外回り アポイントをとって外回り クライアントにはできるだけ マメに顔を出すようにしている
9:00～17:00	お客様のいる9:00～17:00は外出していることが多い
12	昼食 外回りの合間に昼食をとる 仲のいいお客様とお会いした 時は食事をごちそうになることも
17:00	帰社・ディレクション業務など デザイナーへの依頼や原稿の確認などのディレクション業務 企画書や見積りの作成
18	18:30 退社 ※忙しい時期は残業もある
24	24:00 就寝

株式会社東京アート印刷所
墨田区太平2-6-3
TEL 03-5608-2581

昭和39年、山田製版印刷社として創業。昭和41年、社名を現在の東京アート印刷所に改称する。昭和45年、株式会社に改組。平成15年4月には制作部を開設し、デザイン業務をスタートする。平成21年、街おこしの一環として「すみだストリートジャズフェスティバル」を立案。会社をあげて取り組み、成功をおさめる。その後も「すみだバルウォーク」の立案・事務局を行うなど、地元・墨田を元気にする活動を積極的に行っている。



ハードワークの中で、新しいことに挑戦し続ける太田さんのバイタリティはすごい。自分らしくがんばれる仕事をみつけたいと思いました。



イベントの告知ツールは、すべて社内のデザイナーさんに制作をお願いしています。案件が多く、デザイナーさんはいつもフル稼働。できるだけムリなく進行できるよう、スケジュール管理には特に気を配っています

イベントの企画・運営という武器で会社の付加価値を高めたい

地域活性化のイベントに携わること自体

イベントの企画書を作成中。
イベントは「カタチのないもの」ですが、「価値があるもの」を作ることは楽しいし、大きなやりがいを感じます

私の所属する「地域わくわくデザイン部」では、地域に密着したイベントの企画・運営を行っています。主なクライアントは、墨田区の商店街などですが、墨田区でイベントをやりたいという、地方の酒屋さんからオファーをいただいたこともあります。弊社の強みは、企画・運営から告知ツールの制作、印刷まで一貫してできるということと、墨田での実績があること。特にジャズフェスは知名度が高いので、「ジャズフェスで頑張った東京アートさんにお願いしたい」という依頼も多くなってきました。印刷業界では今、低価格を売りにしている会社が増えています。でも、低価格競争に巻き込まれると、会社が立ち行かなくなってしまう。だから、印刷のクオリティだけではなく、プラスαの付加価値を提供することが、印刷会社としても強みになります。イベント運営のノウハウを持つていることは、他の印刷会社にはない、弊社ならではの強み。実際、「イベントのことについて聞きたいから、印刷は東京アートさんに」というご依頼もあります。「安く印刷できるならどこでもいい」ではなく、「ぜひ、東京アートさんにお願いしたい」と言われる

地域活性化のイベントに携わること自体はとても楽しい。でも、イベントだけで利益を出しきることが難しいことが、悩みの一つ。地域活性化には、「公益性が高い」「ボランティア」というイメージがあるため、利益優先で考えていると、クライアントを怒らせてしまうことも。でも、仕事ですから、利益も必要。このバランスが難しいですね。

「仕事」「ビジネス」というドライな考え方だけではなく、地域を盛り上げるお手伝いをしたい、という気持ちを持つことも大事だと思っています。

自分に合った仕事に出会えれば、がんばることが楽しくなる

地域活性化のイベントに携わること自体

まだ1年。まだ「ディレクター・営業」として、満足できる成果は出せていません。早く一人前になれるよう、依頼された案件をこなすだけでなく、積極的に提案をしていきたいと思っています。

この仕事は本当に忙しく、ハードな毎日。でも仕事が楽しいから、努力することも、がんばることも、ツラくありません。「がんばることが楽しい」と思える仕事が見つかれば、人生が楽しくなりますよ!

太田さんのお仕事とは?

ディレクター・営業

チラシやパンフレットといった制作物の企画提案から納品まで一貫して管理する仕事。クライアントの依頼にそつた企画の提案や制作を依頼するスタッフ(デザイナーやライター)の手配、制作物のクオリティ管理、クライアントとの交渉などを。ユーザーの視点に立って新しいアイデアを提案するクリエイティブな感性も必要だ。太田さんの場合、イベントの営業から企画・運営、イベント告知ツールの作成まで、すべてを担当している。

ボランティアで参加したジャズフェス運営が大きな転機に

最初はデザイナー見習いからスタート。2年くらいで「デザイナーになり、さらにディレクションや営業も担当するようになりました。

6年前、「すみだストリートジャズフェスティバル」の運営を手掛けたことが、会社にとって、私にとっても大きな転機でしたね。ジャズフェスは社長とその友人が「墨田を元気にしたい」という思いから、個人的に企画したもの。仕事ではないのですが、私もイベントが好きなので、協力しようと思ったんです。でも、会場の確保や参加アーティストの募集、イベントの告知など初めてのことばかり。本当に大変でした。

でもこのジャズフェスがきっかけとなり、地域に根ざしたイベントの仕事を始めるようになりました。